

—編集後記—

所属大学で授業「土壌学」を担当している。授業回ごとに、学生から任意のコメントを受け付け、そのいくつかに対しての回答をプリントで配付している。ごくまれに面白い（奇妙な）質問がある。例えば、土壌分類のなしをすると「先生はどんな土壌が好きですか？その理由は何ですか？」、あるいは、土壌の骨格や構成成分のなしをすると「先生は土壌の中にある何が好きですか？」である。

「好き」の価値観を連想でひろげると好感（雰囲気が良い、メリットがある）、親近感（親しい、お近づきになりたい）、大切（ないと困る、肝要）等、となるだろう。このような連想を、授業のポイントにからめて回答することもある。次年度の授業時のネタに使うこともある。

科学的方法や論理的思考は省けないが、多様である若い学生には、好き嫌いといった価値観や擬人化といった切り口もなかなか有効なのではないか、と思うようになった。人間は感情を持ち、各々が社会的役割を持っていることを考えると、これはあたりまえなのかもしれない。

上記のような学生の質問とそれに対する回答作成であれこれ考えさせられることは、結果として、凝り固まってしまうような中年の私（今年、年男）へ「もっと柔軟

になろうよ」という示唆や励ましを与えられているようにも感じている。

この二年間、編集委員長を担当した。任が重すぎると感じて一度はお断りしたが、担当することになった。何か決め手があったという記憶はないが、要請されたのなら社会的役割を果たさなくてはならないのかもしれないと考え、「柔軟運動」になるかもしれないとも感じて、お受けしたような気もする。

実際のところ、不十分な点や不手際もあったことと思うが、年3回の発行ができた。執筆いただいたみなさま、および、編集委員のご尽力による賜物である。この場を借りてお礼申し上げる。

編集委員長としての二年間の経験がどのような「柔軟運動」になったのか、あるいは、私自身の新しい「構成成分」になったのかは、いまこの時点ではよくわからない。しかし、漠然としつつも肯定的な気持ちがあることも事実である。

末筆になるが、編集委員長の任を要請して下さった学会長、要の役割を担っていただいた編集幹事に深く感謝する。

澤本卓治（編集委員長）

土壌物理学会

事務局構成	会 長	石黒	宗秀	(北海道大学)	
	副 会 長	竹内	晴信	(北海道立総合研究機構)	
	事務局長	柏木	淳一	(北海道大学)	
	編集幹事	塚本	康貴	(北海道立総合研究機構)	
	会計幹事	倉持	寛太	(北海道大学)	
	会計監査	志賀	弘行	(ホクレン農業協同組合連合会)	
	編集委員会	委 員 長	澤本	卓治	(土木研究所寒地土木研究所)
			飯山	一平	(酪農学園大学)
		委 員	岩田	幸良	(宇都宮大学)
			北川	巖	(農業・食品産業技術総合研究機構)
小林		幹佳	(農業・食品産業技術総合研究機構)		
三枝		俊哉	(筑波大学)		
清水		真理子	(酪農学園大学)		
鈴木		伸治	(土木研究所寒地土木研究所)		
中川		進平	(東京農業大学)		
中野		恵子	(秋田県農業試験場)		
中村	和正	(農業・食品産業技術総合研究機構)			
丹羽	勝久	(土木研究所寒地土木研究所)			
笛木	伸彦	((株)ズコーシャ)			
渡辺	晋生	(北海道立総合研究機構)			
				(三重大大学)	